

金剛山高天谷・沢ハイク 平成21年7月26日(日)

メンバー: H.I.I.O K.O(記) 天候:曇り時々晴れ

コースタイム:高天彦神社駐車場 9:05 - 高天滝(9:10 - 9:15) - 二俣(10:40 - 10:45) - 高天道に合流(11:45 - 11:55) - 金剛山転法輪寺(12:05 - 12:30) - 高天彦神社駐車場 13:50

概要:今回は、久しぶりに旧知のH.Iさんの希望による山行。沢と温泉と食事の希望を日帰り山行の形でメニュー化することになった。しかし、このところ、梅雨明けがずれ込み、今もって天気の良い日が続いているので、余裕を持った計画、『金剛山の高天谷～金剛山往復、帰りに温泉「かもきみの湯」入浴、夜は焼き肉のお店にご招待』の計画とした。雨の時は、一般の登山道を歩いて山頂往復も可能である。以前、Sクラブに在籍していながら金剛山に登ったことがないとのことなので、山頂往復だけでも価値がある。

さて、このコースは記録も多く、ポピュラーであるので、谷のコース概要は簡単に、地名の由来について、素人の俄知識を少し講釈しておくことにする。

今回のコースの出発点となる高天彦神社は、金剛山の東山麓の奈良県御所市高天にある延喜式内社で、最高の社格とされた名神大社である。金剛山は、古くは高天山といわれていたとのことである。さらに、高天原とは、古事記に登場する神様が住むとされる天上界のことであり、この地名は全国各地に多く残っている。有名なところでは、北アルプス雲の平・高天原や志賀高原の高天原がある。この辺りのことを勉強しておく、登山にも深みが出てくると、私は思うのであるが……。

参考 HP: <http://takama.sakura.ne.jp/index.html>

駐車場から舗装された道路を避け、神社に向かって左側の百度石のところから参道を歩くと、両側に杉の古木が立ち並び、幽玄な神さびた雰囲気を感じさせてくれる。登山者は、この道から歩き始め、安全祈願を兼ねて、高天彦神社にお参りしてから、入山するようにしたいものである。また、この道は、郵便道(高天道)として、昔は郵便配達の人がこの道を通って山頂まで郵便物を届けたそうである。

それでは、本題の高天谷であるが、不動の滝(高天滝)から入渓する。ここまで舗装された道があり、水を汲みに来ている人もいた。滝の側に「不動明王」がお祀りされている。滝自体は直登できそうであるが、行場としてのご神体であるため、直登は避ける方が無難であろう。私たちは右に付けられたロープを利用して高巻いた。更に、この先の堰堤下の数メートルの滝は左から、崩壊地から先の約10m程の滝は右から高巻いた。今日はあえて無理をしなかった。

途中、土砂崩れによる倒木のため、谷が埋まっていた、かなりうっとうしい場所があったが、ここを過ぎると、悪場もなく、小滝をすべて快適に越えていくことができた。この後、二俣で休憩。どちらに進むか検討した結果、右の沢を取ることにした。左の沢を偵察すると、四段40mと言われる滝が懸かっていたが、水量が少なく、登攀意欲はまったく湧かなかった。金剛山の沢の限界である。

二股に引き返し、右の沢を進むと、長いなめ状のスラブが続いていた。こちらも水量が少なく面白くない。上部で右側の尾根に逃げて、沢から離れ、後は稜線を目指して直登、最後は踏み跡づたいに左にトラバースして、高天道の登山道に合流した。

最後に、金剛山は修験道の山でもあり、山頂付近には、役行者が開いたとされる転法輪寺がある。山頂部は聖域のため、入山禁止となっていて立ち入ることはできない。また近くには葛木神社があり、毎年7月7日は、転法輪寺と葛木神社の神仏習合による、れんげ祭りが行われるそうである。



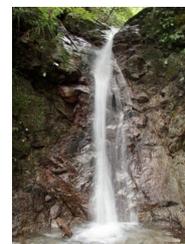
高天彦神社



高天滝(不動の滝)



不動明王



10m滝



がけ崩れ



快適に小滝を超えていく



山頂は立ち入り禁止



高天の集落